

大田区自立支援協議会 第3回相談支援部会要旨

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第3回相談支援部会				
(2) 開催日時	令和7年11月12日(水) 9:30~12:00				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター5階 多目的室				
(4) 出席した委員、事務局等	委 員 <敬称略>				
	名倉 壮郎	古怒田 幸子	後藤 貴久	長谷川 幸恵	深堀 希
	大窪 恒	大類 信裕	呉 ルミ	筒井 寛孝	長瀬 麗奈
	長濱 久美子	二階堂 直子	西山 由佳莉	山本 利寛	与儀 ひとみ
	渡邊 加奈子				
	オブザーバー：徳留 敦子、松井 知子、野呂 美之、山口 加代子				
	事務局：小林 善紀、矢島 千恵、酒井 史穂、小林 琴葉、岡村 空奈				
欠席者：草野 牧子、小嶋 愛斗、清野 弘子、柳下 大、村田 亮、七尾 尚之、岩淵 清美、小柳 正人、森田 好美、渡部 尚					
(5)内容・要旨	<p>1 連絡確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 5グループを予定していたが4グループに変更 <p>(1) 司会・書記の確認 司会は名倉部会長、小林係長。書記は事務局と確認した。</p> <p>(2) 資料の確認</p> <p>(3) 議事録・意見出しカードの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第2回の議事録を確認した。 ● 意見出しカード内容について確認した。 <p>(4) 運営会議の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年9月18日の運営会議について資料に沿って報告した。 <p>2 本日の検討課題</p> <p>(1) 個別支援事例を通じた地域課題の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援学校における支援事例紹介と検討 <ul style="list-style-type: none"> 教育と福祉の有機的な連携について、特に障がい児から障がい者への切り替わり時の進路指導について、特別支援教育はどのようなことが行われているか分からないという意見があった。本日は、前半で特別支援学校のことや、進路指導について情報提供をしてもらい、後半に事例と、それを踏まえたグループワークを行う。 <p>ア 特別支援学校高等部について 特別支援学校の歴史と現状や進路指導等についての説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「将来の働く生活について～職業準備性のピラミッド～」 				

特別支援学校では、勤労観につながる基本的な生活習慣を身に付けていくことや、社会生活、家庭生活に主体的に参加していくことを大事にしながら教育を行っている。

- 「特別支援学校のキャリア教育～自己有用感へのステップ～」
自分と他者との関係を肯定的に受け止められる経験を重ねることで自己有用感を高め、いつでもどこでも誰とでも、同じように自分の力を発揮できるように支援している。
- 在学中に作成している個別指導計画、学校生活支援シート、キャリアパスポート、学校移行支援計画について説明があった。

(名倉部会長)：様々な思いが絡み合いながら本人の進路決定を行っており協議会の共通テーマである意思決定支援にも大きくつながる。

イ 事例紹介

● 事例1 (保護者多忙)

保護者が多忙により本人把握が難しいケース。

● 事例2 (不登校)

対人関係に課題があり、長期欠席が続いているケース。

● 事例3 (強度行動障がい)

強度行動障がいがあり、こだわりの強さから保護者が対応に苦慮しているケース。

(2) グループワーク

事例報告から個別の課題や地域の課題について、グループワークを行った。

【Aグループ】

● 事例1 について

- 本人や家族が就労継続支援B型事業所に行きたい理由は何かということをしちんと確認していく必要がある。進路という重要な時期であるため、保護者の関わりに対してアプローチをしていく必要がある。
- 効率よくサービスには繋がっているが、本人の状況の情報共有の場が設定されていない。
- 就労継続支援B型事業所や、生活介護事業所のメリットを客観的に伝える立場の人物がいないということが事例1の課題という意見が出た。

● 事例2 について

- 学校の先生とは違う立場の医師や訪問看護などの第三者と関わり、関係性を築いていくことで、本人が再び社会に向けて出ていけるのではないかと意見が出ていた。

- もう少し若い時期であれば訪問支援を行う放課後等デイサービスなども、不登校の方の支援としてあるのではないかという意見が出た。
- 事例3について
- ヘルパーの強い思いが課題であるという意見が出ている。同業者が複数入ることで、意見調整ができるのではないか。
- 卒業後、児童から成人へ切り替わることで、放課後等デイサービスが使えなくなる。平日は生活介護が終了する15時30分ごろから家族が帰宅するまでの時間にサービスを入れる必要がある。大田区にはまだないが、通所先にトワイライト型の支援があるとよい。トワイライトの時間帯のサービスは現在居宅支援と、移動支援だけなので、サービスを整えていけるといという意見が出た。
- 【Bグループ】
- 事例1について
- 保護者にも休日が無いわけではないと思うが、休日の接し方は分からない。保護者の休息も取れ、同時に本人のことも見ることができない手立てがないのか。そもそもそういうサービスが存在するのかわからない。
- 本人の安心感がないと、好きなことに向き合えないのではないか。
- 事例2について
- 本人自身の金銭管理支援はできているのか、できていないのであれば外部のサービスに頼ることもできるのではないか。
- 保護者も心理的にきつい状況ではある。保護者が相談できる支援機関とつながれるといいのではないか。保護者に向き合い、適切な支援を組むことができるような機関はあるのか、なければ作らなければいけない。これも地域課題になるのではないか。
- 事例3について
- 強度行動障がいならではの話で、とても大変だと思う。特定のヘルパーに頼る支援は好ましくない。
- 支援会議で保護者が意見しづらくなった理由は、色々な想定ができるが、会議の回し方によって思いを聞き出せたのではないか。
- 入所施設に入ることは「よかったのか、悪かったのか」、もし「入所＝悪い」という考え方が一般的で、入所そのものがよくないというイメージが蔓延しているのであれば、それが地域課題なのではないか。
- 【Cグループ】
- どの事例についても、学校の手厚さを感じた。18歳から大人になっていくときに、その手厚さからどう手放していくのかというのは、どのケースも共通する難しさだと思う。
- 事例1について
- 保護者に、卒業すると今の手厚さがなくなるという理解がどれくらいあるのか。

- 保護者が疲れ切ってしまうか等考えながら、フォローも必要だと感じた。
- 障がい児から障がい者になっていく過程で、25歳くらいまでうまくバトンタッチをしてくれる人、伴走してくれる人がいるような支援があったらいいのではないかな。
- 事例2について
 - 本人には力がある。もうすでに行っているかもしれないが、保護者と本人の想いの違いを学校が間に入りながら調整していく必要があると思う。
 - 本人はトラブル回避が難しいため、イライラが多くなってしまう。移行先でトラブルが起きなければいいなと思う。
- 事例3について
 - この支援者じゃなきゃダメという支援を続けていることが大きな課題。
 - 本来支援は一般化され、支援者や家族で共有していく必要がある。高齢者でもこのようなヘルパーに依存してしまうケースがある。
 - 担当の人が変わることは色々なケースであるため、変化していくことも大事だと思う。
 - 入所することができよかった。しかし、入所がゴールではない。強度行動障がい者が今後落ち着いてきたら、その理由を分析し今後役に立てていければいいと思う。
- 【Dグループ】
- 事例1について
 - なぜ家族が就労継続支援B型事業所を希望しているのかということをもう少し掘り下げ、本人の好きなことを家族も含めて考えていく必要がある。
 - 18歳は通過点の1つであり、本人が笑顔で過ごせることをゴールにする考え方を共有ができるといい。
 - 忙しい家族と情報共有を重ねていくことは難しいが、メールやメッセージアプリ、Web会議ツールなどで情報共有を行うのもいいのではないかな。
- 事例2について
 - 本人の学校に行きたい気持ちは大事にしていきたいという意見が出ていた。
 - 家族まるごと支援できるようところがあってもいいのではないかな。
 - 本人や家族、支援者がクールダウンの方法を掘り下げ、増やしていけたらいい。
- 事例3について
 - 入所が悪いイメージがあるが、入所も1つの通過点である。
 - 関係者会議で保護者がヘルパーに意見が言いづらいという話があり、間に入ることができる人がいればいいと思った。
 - 支援に関与する人が一点集中にならないようにする必要がある。
 - きょうだいへの支援も必要なのではないかな。

- 障がい児から障がい者への切り替わり時の、長いスパンのライフスタイルを支えていくことができる制度が充実していけばいいと思う。

(事例報告者より)： 教育と福祉で考え方など違うこともあるが、どちらも本人が幸せになる支援の方法を考えながらやっている。引き続き適切な支援方法を探っていければと思う。本日はありがとうございました。

3 今回決定事項及び次回検討事項の確認

● 次回日程

令和7年12月10日(水) 9時30分～12時00分

障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室